



# 大学生の意識

- 1 大学生の社会観・就労観など
- 2 保護者との関係

お茶の水女子大学 准教授 望月 由起 (1)

青山学院大学 准教授 杉谷 祐美子 (2)

## 1 大学生の社会観・就労観など

2008年調査同様、いい友だちやお金によって幸福感を持つ学生、仕事を通じた社会貢献志向が強い学生が多い。ただし、「いい友だちがいると幸せになれる」と強く思う学生は明らかに減少した。学年が上がるにつれ、一流企業志向は低下し、自己成長意識は上昇しており、男子学生の学歴志向、女子学生の社会貢献志向もみられた。

大学生は、どのような社会観・就労観をもっているのだろうか。

本項では、大学生の社会観・就労観などについて、2008年調査との経年比較に加え、本調査の結果を学年別・性別にみていく。

### 仕事を通じた社会貢献志向、 いい友だちやお金による幸福感

図6-1-1は、2008年調査および2012年調査の「大学生の社会観・就労観など」について「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」から1つ回答を求めた結果を示したグラフである。

まずは、2008年調査との経年比較についてみていこう。全体的にみて、両調査の結果に大きな違いはみられなかった。「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計（以下、該当率とする）が最も高いのは「いい友だちがいると幸せになれる」で両調査ともに

9割を超えている。それに続いて「仕事を通じて社会に貢献することは、大切なことだ」「お金がたくさんあると幸せになれる」が8割を超えている。ただし、「いい友だちがいると幸せになれる」に対して「とてもそう思う」と回答した学生は明らかに減少している（マイナス8.3ポイント）。

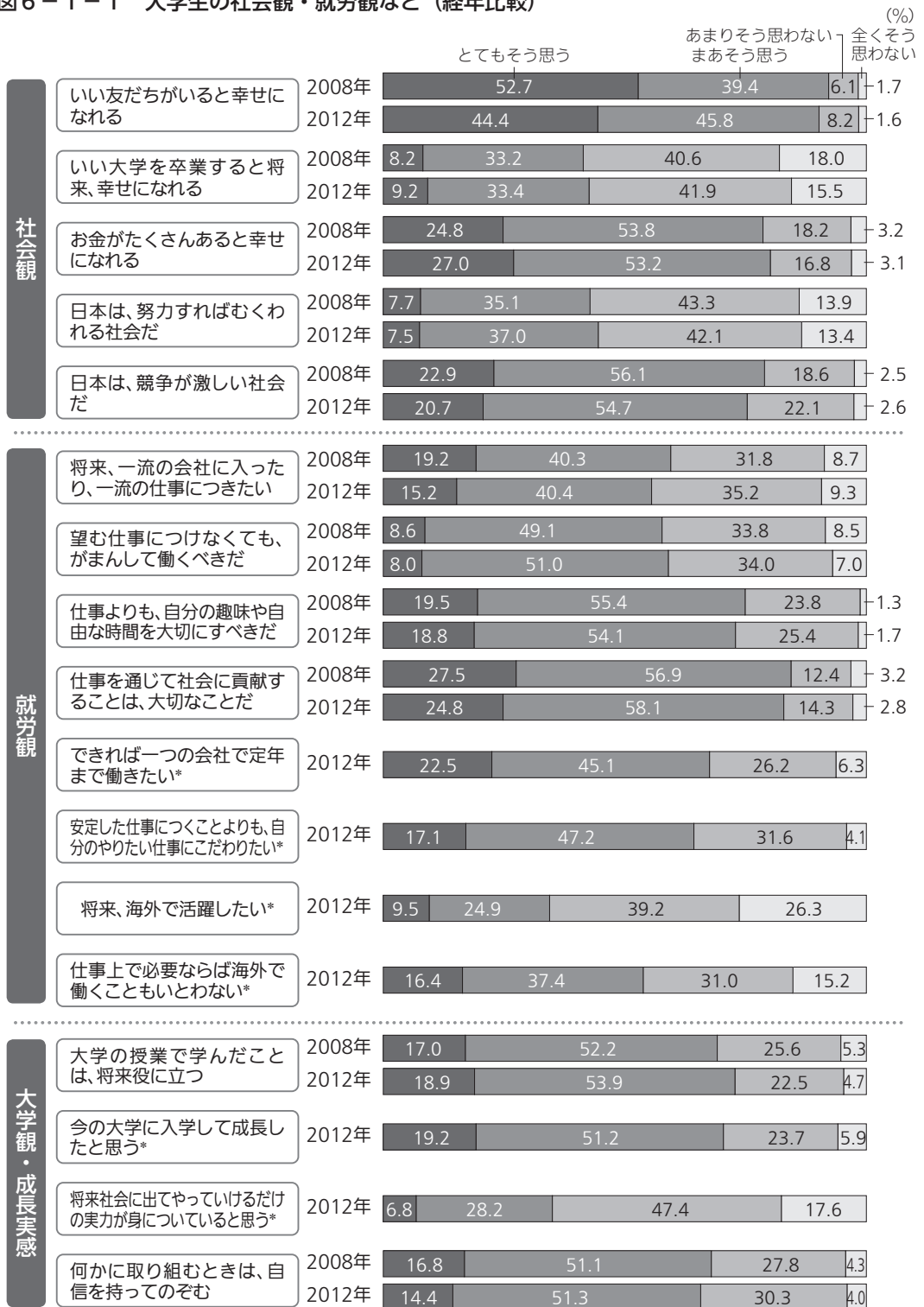
一方で「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の合計（以下、非該当率とする）が高いのは「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」「日本は、努力すればむくわれる社会だ」であり、両調査ともにおよそ6割に及んでいる。

2012年調査にのみ設定した項目に目を向けると、該当率が最も高いのは「今の大学に入学して成長したと思う」で7割を超えている。それに続いて「できれば一つの会社で定年まで働きたい」「安定した仕事につくことよりも、自分のやりたい仕事にこだわりたい」が6割を超えている。



あなたは次のようなことがらについてどう思いますか。それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

図6-1-1 大学生の社会観・就労観など（経年比較）



注1) \*の項目は2008年調査ではたずねていない。

注2) サンプル数は、2008年4,070名、2012年4,911名。

学年が上がるにつれ、一流企業志向は低下し、自己成長意識は上昇

こうした傾向には、学年差もみられる。「大学生の社会観・就労観など」の該当率を学年別に示したのが表6-1-1である。

学年が上がるにつれ「将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい」(1年生と4年生で11.1ポイント差)、「将来、海外で活躍したい」(同9.5ポイント差)、「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」(同8.3ポイント差)、「大学の授業で学んだことは、将来役に立つ」(同7.9ポイント差)の該当率は低下している。

その一方で、学年が上がるにつれ「今の大学に入学して成長したと思う」(1年生と4年生で11.6ポイント差)、「将来社会に出てやっていけるだけの実力が身についていると思う」(同7.9ポイント差)、「望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ」(同6.9ポイント差)の該当率は上昇している。

男子学生の学歴志向、女子学生の社会貢献志向

「大学生の社会観・就労観など」の傾向には、性差もみられる。

「大学生の社会観・就労観など」の該当率を性別に示したグラフが図6-1-2である。

「将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい」(12.7ポイント差)、「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」(8.1ポイント差)、「何かに取り組むときは、自信を持つてのぞむ」(7.4ポイント差)、「将来社会に出てやっていけるだけの実力が身についていると思う」(6.8ポイント差)などは、男子学生の方が女子学生に比べてその該当率が明らかに高い。

その一方で、「大学の授業で学んだことは、将来役に立つ」(7.4ポイント差)、「仕事を通じて社会に貢献することは、大切なことだ」(5.3ポイント差)、「いい友だちがいると幸せになれる」(5.2ポイント差)などは、女子学生の方が男子学生に比べてその該当率が明らかに高い。

表6-1-1 大学生の社会観・就労観など (学年別) (%)

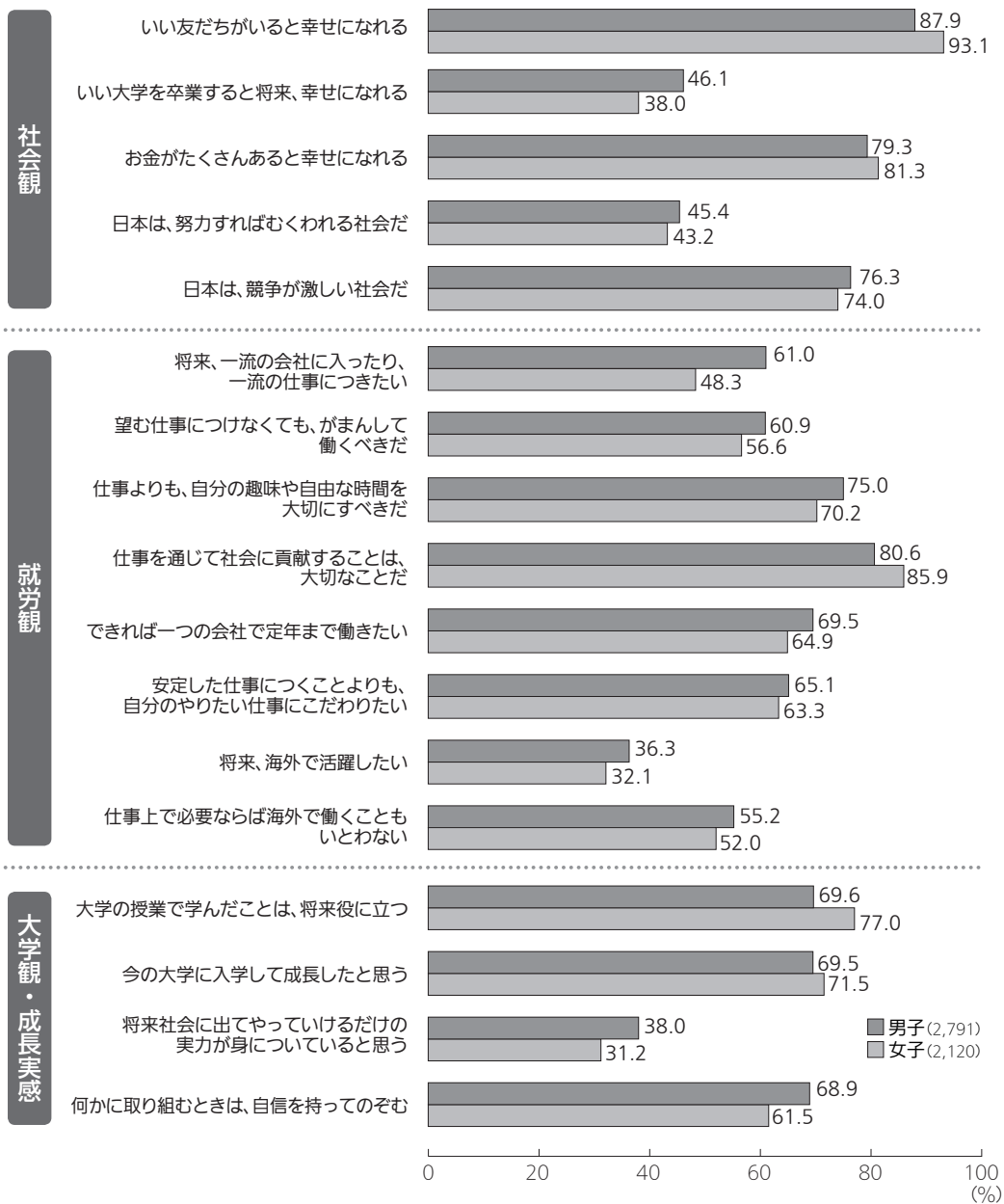
	全体 (4,911)	1年生 (1,225)	2年生 (1,227)	3年生 (1,223)	4年生 (1,236)	
社会観	いい友だちがいると幸せになれる	90.2	90.5	90.7	89.1	90.6
	いい大学を卒業すると将来、幸せになれる	42.6	46.0	45.9	40.9	37.7
	お金がたくさんあると幸せになれる	80.2	78.9	82.4	78.4	80.9
	日本は、努力すればむくわれる社会だ	44.5	44.0	43.4	42.9	47.5
	日本は、競争が激しい社会だ	75.4	77.3	76.4	75.0	72.7
就労観	将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい	55.6	61.1	58.3	52.8	50.0
	望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ	59.0	56.3	57.7	59.1	63.2
	仕事よりも、自分の趣味や自由な時間を大切にすべきだ	72.9	71.4	72.9	72.9	74.6
	仕事を通じて社会に貢献することは、大切なことだ	82.9	82.9	83.4	81.1	84.2
	できれば一つの会社で定年まで働きたい	67.6	69.2	67.9	66.7	66.4
	安定した仕事につくことよりも、自分のやりたい仕事にこだわりたい	64.3	65.3	66.0	62.8	63.2
	将来、海外で活躍したい	34.4	39.8	37.2	30.5	30.3
仕事上で必要ならば海外で働くこともいとわない	53.8	56.0	54.2	51.2	53.8	
学歴・成長意識	大学の授業で学んだことは、将来役に立つ	72.8	77.0	73.3	71.8	69.1
	今の大学に入学して成長したと思う	70.4	63.7	70.1	72.5	75.3
	将来社会に出てやっていけるだけの実力が身についていると思う	35.0	31.3	31.4	38.4	39.2
	何かに取り組むときは、自信を持つてのぞむ	65.7	66.0	65.8	64.6	66.4

注1) 「とてもそう思う」 + 「まあそう思う」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上高いもの、\_は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。

注3) ( ) 内はサンプル数。

図6-1-2 大学生の社会観・就労観など（性別）



注) 「とてもそう思う」 + 「まあそう思う」の%。

## 2 保護者との関係

2008年調査に比べて2012年調査では、保護者に依存する学生が増え、特に男子学生の増加が目立つ。しかし、学年が上がるにつれて、こうした学生の比率は徐々に低下することから、自立、成長の可能性も上がってくる。

### 保護者に依存する学生は増加

いまや、大学の入学式や卒業式で保護者が同伴するのは当たり前、保護者対象の学生生活に関する説明会や就職説明会、個別面談なども開かれる時代になった。学費・生活費を負担する保護者が大学に向ける目は厳しく、就職面も含めた大学の指導・支援への要望は強い<sup>\*1</sup>。また、核家族化、少子化の進行によって、親子関係はより密になっていると想像される。大学生にとって、保護者の存在、影響は決して小さくないことだろう。

ここでは、2008年調査時の設問にさらに新たな項目を追加し、現在の大学生と保護者との関係を検討する。

図6-1-3からは、この4年間で、自分でものごとを決めたり、問題を解決したりする学生が減少していることがうかがえる。2008年調査では、約6割の学生が自分で決定し、解決すると回答したのに対して、2012年にはそれが半数程度になっている。これはAを基準にしてみれば、「A」+「どちらか」というとAに近い(以下同)の%が、「A: 保護者のアドバイスや意見に従うことが多い」(5.8ポイント増)、「A: 困ったことがあると、保護者が助けてくれる」(7.2ポイント増)、「A: お金が必要になったら、保護者が援助してくれる」(5.6ポイント増)と、保護者に依存する学生が増えたことを意味する。

また、「A: 進路や就職に関して保護者の

方から希望や意見を言われる」(38.2%)に対して、「B: 進路や就職に関して自分の方から保護者に話をしたり、相談をする」(61.9%)学生は約6割を占める。このBの項目は、学生が進路について自発的に考えているとみなすこともできるが、反面、進路の相談相手として親を頼りにしていると解釈することもできよう。いずれにしても、保護者に干渉されていると感じる学生よりも、自分から積極的に保護者に相談しているという意識をもつ学生のほうが多いということだ。

ただし、「B: 進路や就職に関しては保護者の意見によらず自分の考えで決めたい(決めたい)」(78.7%)は約8割に上り、大半の学生は進路の決定について自分の意思を通したいと考えている。

### 男女差は縮小

保護者との関係については、2008年調査で性別による差が顕著であった。今回も、「A: 保護者のアドバイスや意見に従うことが多い」(男子43.2%<女子49.5%)、「A: 困ったことがあると、保護者が助けてくれる」(男子45.8%<女子53.2%)、「A: お金が必要になったら、保護者が援助してくれる」(男子62.3%<女子67.2%)というように、女子のほうが保護者に依存する傾向にある。

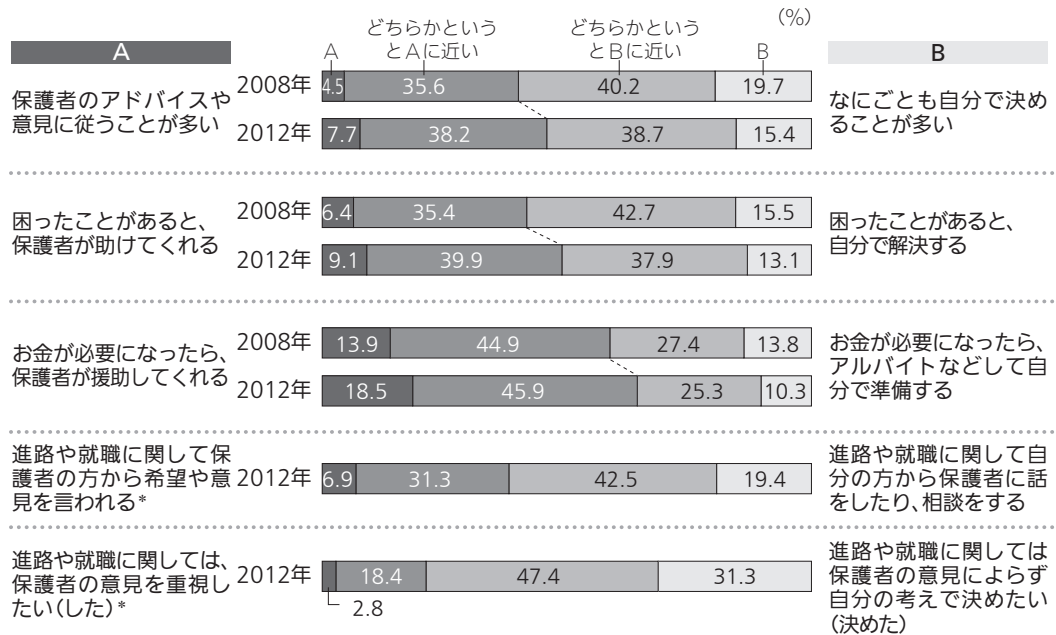
ところが、こうした男女の差も前回調査に比べれば縮小している(図6-1-4)。「A: 保護者のアドバイスや意見に従うこと

\* 1 Benesse 教育研究開発センター 2012『大学生の保護者に関する調査』Benesse 教育研究開発センター



あなたと保護者との関係について、それぞれについてもっとも近いもの1つをお選びください。

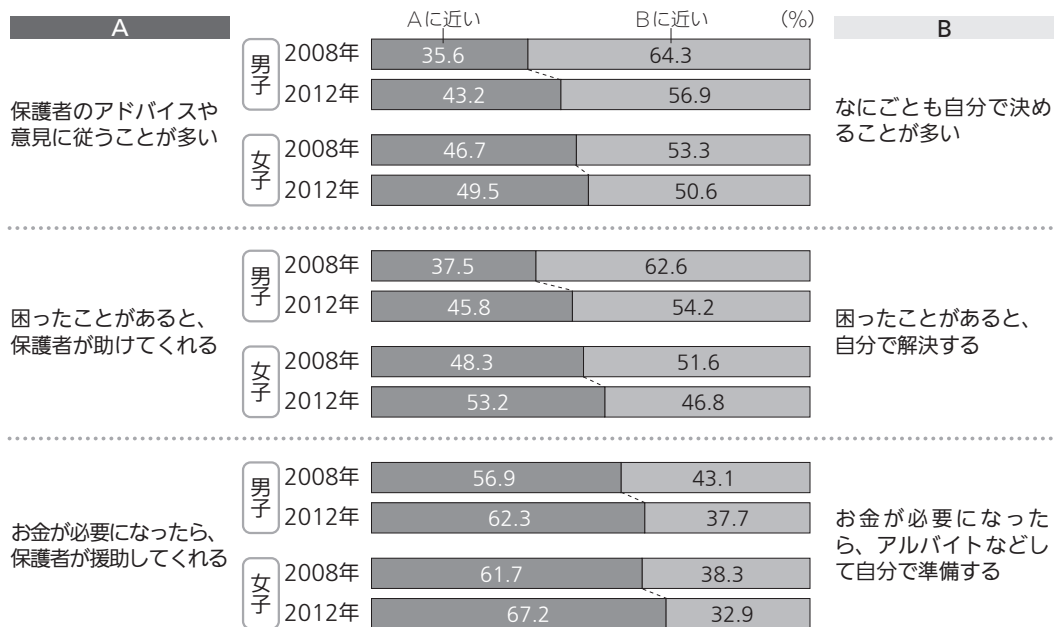
図6-1-3 保護者との関係 (全体・経年比較)



注1) \*の項目は2008年調査ではたずねていない。

注2) サンプル数は、2008年4,070名、2012年4,911名。

図6-1-4 保護者との関係 (性別・経年比較)



注1) 「Aに近い」は「A」+「どちらかというとAに近い」の%、「Bに近い」は「B」+「どちらかというとBに近い」の%を表す。

注2) サンプル数は、2008年男子2,439名、女子1,631名、2012年男子2,791名、女子2,120名。

が多い」では男子(7.6ポイント増) > 女子(2.8ポイント増)、「A: 困ったことがあると、保護者が助けてくれる」では男子(8.3ポイント増) > 女子(4.9ポイント増)と、男子の依存度のほうが増しているのである。

なお、「B: 進路や就職に関して自分の方から保護者に話をしたり、相談をする」(男子61.2%、女子62.7%)、「B: 進路や就職に関しては保護者の意見によらず自分の考えで決めたい(決めた)」(男子78.5%、女子78.9%)では、性別による差はみられなかった。

---

### 学生の成長

---

その他、属性別の分析にもふれておこう。

学部系統別では、全体と比べて5ポイント以上の差がみられたのは、「A: 保護者のアドバイスや意見に従うことが多い」(「教育」52.1% > 全体45.9%)、「A: 困ったことがあると、保護者が助けてくれる」(「教育」57.4% > 全体49.0% > 「農水産」43.9%)、「A: お金が必要になったら、保護者が援助してくれる」(「医・薬・保健」71.2% > 全体64.4%)であった(巻末の基礎集計表を参照)。「教育」系は保護者に対して依存的で、従順な傾向があり、「農水産」系はその逆である。「医・薬・保健」系は、裕福な家庭層が多いためか、金銭面での援助が期待できるようである。

また、入学時に大学生生活に最も期待していたこととの関連で特徴的な点を挙げると

(表6-1-2)、「将来の仕事に役立つような力を身につけたい」学生層は「B: 進路や就職に関しては保護者の意見によらず自分の考えで決めたい(決めた)」(84.0%)傾向がある。それとは対照的に、「A: 進路や就職に関して保護者の方から希望や意見を言われる」のは、「自分の将来の方向をみつきたい」学生(43.4%)や「卒業までの自由な時間を満喫したい」学生(46.7%)であり、進路や目的が明確になっていない学生は、実際、保護者から心配されているようである。

さらに、前回の調査では学年差がほとんどみられなかったところ、今回は、図6-1-5のような結果となった。「B: なにごとでも自分で決めることが多い」(1年生48.3% → 2年生52.6% → 3年生55.2% → 4年生60.2%)、「B: 困ったことがあると、自分で解決する」(1年生46.3% → 2年生50.7% → 3年生53.0% → 4年生54.0%)と、学年が上がるにつれ、自分で決定し、解決する比率が高くなる。特に、1年生と4年生では10ポイント前後の違いとなっている。また、「B: 進路や就職に関しては保護者の意見によらず自分の考えで決めたい(決めた)」において「B」の%は、1年生28.6% → 2年生28.9% → 3年生30.1% → 4年生37.7%と、これも1年生に比べて4年生が9.1ポイント増大している。年齢に応じて、徐々に自立、成長し、親離れしていく可能性がうかがえる。



表6-1-2 保護者との関係 (大学生活への期待別)

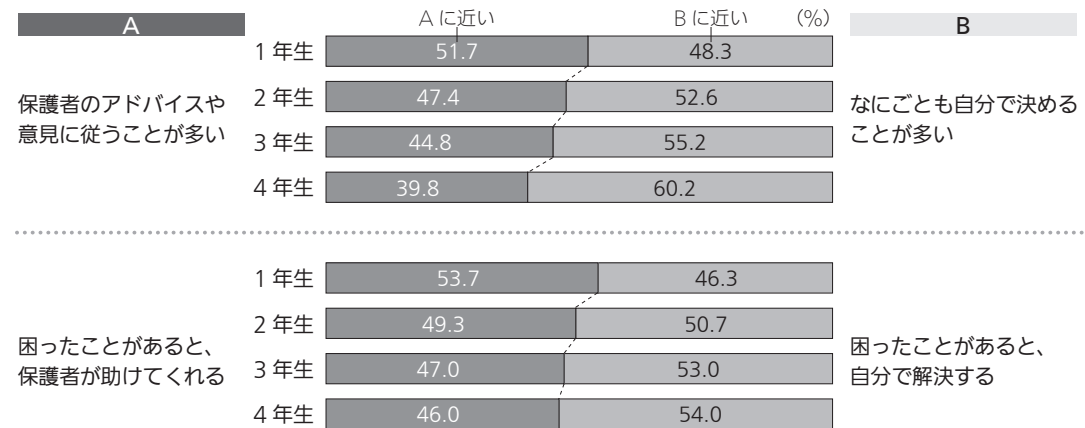
(%)

	全体	専門分野について深く学びたい (1,644)	専門に限らず幅広い知識や教養を身につけたい (530)	就職につながる学習や資格取得、活動をしたいたい (534)	友人をつくりよい人間関係を広げたい (530)	部活・サークルなど課外活動に力を入れたい (304)	将来の仕事に役立つような力を身につけたい (319)	自分の将来の方向をみつけたい (566)	卒業までの自由な時間を満喫したい (484)
A: 保護者のアドバイスや意見に従うことが多い	45.9	42.5	44.7	52.6	48.5	47.3	45.5	46.1	47.5
B: なにごととも自分で決めることが多い	54.1	57.5	55.3	47.4	51.5	52.6	54.6	53.9	52.4
A: 困ったことがあると、保護者が助けてくれる	49.0	48.5	46.4	54.7	51.2	51.6	46.7	47.2	46.9
B: 困ったことがあると、自分で解決する	51.0	51.6	53.6	45.3	48.9	48.3	53.3	52.8	53.1
A: お金が必要になったら、保護者が援助してくれる	64.4	63.7	64.1	63.7	64.0	65.1	62.1	64.5	69.4
B: お金が必要になったら、アルバイトなどして自分で準備する	35.6	36.3	35.9	36.3	36.0	34.8	37.9	35.5	30.5
A: 進路や就職に関して保護者の方から希望や意見を言われる	38.2	34.9	34.9	38.0	39.4	40.5	33.8	43.4	46.7
B: 進路や就職に関して自分の方から保護者に話をしたり、相談をする	61.9	65.1	65.1	62.0	60.6	59.5	66.1	56.5	53.3
A: 進路や就職に関しては、保護者の意見を重視したい (した)	21.2	19.4	21.7	24.2	23.6	25.0	16.0	20.0	24.0
B: 進路や就職に関しては保護者の意見によらず自分の考えで決めたい (決めた)	78.7	80.6	78.3	75.8	76.5	75.0	84.0	80.0	76.0

注1) 上段 (A) は、「A」+「どちらかというAに近い」の%、下段 (B) は「B」+「どちらかというBに近い」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上高いもの、□は全体よりも5ポイント以上低いものを示す。

図6-1-5 保護者との関係 (学年別)



注1) 「Aに近い」は「A」+「どちらかというAに近い」の%、「Bに近い」は「B」+「どちらかというBに近い」の%を表す。

注2) サンプル数は1年生1,225名、2年生1,227名、3年生1,223名、4年生1,236名。